

新聞を通して「対話力」「文章力」を鍛え、 社会で活躍するための力を身に付ける OGATAStyle

新潟市立大形中学校

1 N I E 実践のねらい

- (1) 新聞を活用した哲学的な対話を通して、誰かと対話することの楽しさを知り、相手を受け止め、自分が受け入れられているという実感を味わう。 【学びに向かう人間性】
- (2) 自分たちで「問い」を生み出し、答えのない「問い」に対して、新聞記事を活用しながら粘り強く考える力を育成する。 【思考力・判断力・表現力】
- (3) 新聞記事ができるまでの過程を知り、見出しや構成を工夫しながら1枚の「はがき新聞」にまとめるデザイン力を身に付ける。 【知識・技能】

2 本年度実践の概要

新聞を活用して社会で活躍する人々の生き方や考え方に触れ、自分自身の夢や生き方について考える力を育てることをねらいとして取り組んだ。日々のニュースや特集記事には、さまざまな人の挑戦や努力の姿があり、生徒たちが将来を考える上で多くの示唆を得ることができると考える。自分が興味がある新聞記事をデジタルスクラップにし、気になった理由、夢との関わり、感想などを伝え合う活動を縦割り班で継続的に行い、自分自身の夢を言葉にし、仲間との対話を通して深めていく学習を構想した。新聞という現実の情報源を教材化することで、学習が実社会とつながりを持ち、自己理解と他者理解を行き来する豊かな学びとなると考えた。

(1) 実施計画

	実施日	ね ら い	内 容
①	4月23日	・新聞制作や新聞の意義について深く知ろう	出前授業（1年生） 新聞制作や新聞の意義について
②	5月15日 5月23日	・自分で新聞を作ってみよう	「クミハン」活用（1年生） 校外学習のまとめ
③	5月20日 （課題設定）	・自分の夢や関心事に着目して新聞を読んでみよう	全校一斉新聞読みⅠ（夢探し） ※縦割り班
④	6月4日 （課題設定）	・大学生の夢について知ろう	大学生による夢を語る会 （全校）
⑤	7月3日 （情報収集）	・目的をもって情報を集めよう	全校一斉新聞読みⅡ（夢探し） ※縦割り班

て、こんなこともあったのかと自分はこんなことをまだ気づけていなかったのだと改めて実感する事ができました。

- ・ NIE 活動を通して、時事に自ら触れ、知ろうとする姿勢や夢や目標を真剣に考える姿勢が身についた。自分が知らなかった出来事や、今自分が何になりたいのかを真剣に考えられた。NIE 活動が終わっても、この活動で学んだ姿勢を忘れず、目標に向かって頑張りたい。
- ・ NIE 活動を通して力がついたことは人と対話しようという意識が前よりも高くなったことです。NIE 活動をしてみて、今まで新聞に全く興味がなかったけど、この活動で新聞を読むと日々のニュースがとても分かりやすくまとめられているということに気づけて良かったです。
- ・ いろいろな人と協力するための力をつけることができましたと思います。今までは友達やクラスメートとしか協力したことがなかったけど、他学年と協力したことはなかったので、この経験を活かしたいと思いました。
- ・ 出前講座で、新聞の大事さに気づくことができ、改めて新聞にもっと関心をもつことができました。大学生の方々のお話を聞いて、色々な夢をもっている人がいるなど感じたり、自分の将来について改めて考えてみようと思うことができました。新聞を読み、興味を持った記事についてまとめたりし、このようなことをするのが初めてだったので難しかったけど、自分の将来の夢について関わっているなど感じました。これもすごく良い経験だなと思いました。実際に自分の夢の俳句を書いてみて、もっと将来を考えようと思ったし、夢に向き合うことができよかったです。
- ・ 新聞を普段目にするものもないので、この機会を通して、新聞を自分で読むことで、情報がよく頭に入ってくるし、その情報の細かさが凄いいました。何か気になる事があったら、ニュースを見るだけでなく、新聞にも目を通してみようと思いました。

< 協議会の内容 >

◆ 新聞は生き方を考える機会になっていたか？

- ・ 自分の興味のある記事をデジタルスクラップしていくことで、枝分かれ的に自分の生き方を考えていた。
- ・ 様々なジャンルの記事を読んで、興味がなかったことから俳句につながっていた。
- ・ 興味以上のことを収集できる。ネットと違って、見出しを見るだけでも広い視野で物事を捉えるヒントになっていく。
- ・ グループ活動を通して、他者の夢を知ること、応援する気持ちをもつことで、生徒にとって生き方を考える良い刺激になっていた。
- ・ 生き方につながるために、今後も継続していく必要がある。プレゼンの仕方などを学ぶことで、もっと対話が広がっていくと思う。

◆新聞をキャリア教育に活用するよりよい方法はどんなことか？

- ・新潟日報のニュースサーチ、ふむふむスタディなどのアプリを使う。
- ・新聞には幅広い情報があるので、どこに生徒の心を刺激する種があるか分からないし、知らない世界を知ることができるから、紙の新聞を読むことが重要である。
- ・これからの時代は、人と人が対話していかなければいけないので、新聞を活用して、対話をしていくことは有効だと感じる。
- ・ローカルな記事を読むことで、身近なキャリアにつながることが多い。
- ・朝日中高生新聞など、子ども向けての新聞から入っていくのがよい。

(3) 成果

本実践では、俳句づくりと新聞づくりの活動が強く関連し合い、学びを深める効果的な学習となった。特に、俳句を作る過程は新聞の見出しを考える活動と非常に親和性が高く、限られた言葉の中で自分の思いや考えを端的に表現する力が自然と育まれていた。生徒は、伝えたい内容の核は何かを意識しながら言葉を選び、表現を練り直す姿が多く見られた。

縦割り班での活動では、同学年同士では得られにくい視点や助言が生まれ、学びに広がりが生じていた。後輩は、先輩から具体的で実践的なアドバイスを受けることで、自分の考えを見直し、新たな発想を取り入れることができていた。一方、3年生はファシリテーターとして話し合いを進め、相手の考えを引き出しながら助言する役割を担うことで、自身の学びや考えを言語化し、深める機会となっていた。

協議会では、「デジタル新聞を活用することで、興味をもった事柄をさらに深く調べることができる」という助言があり、実際の活動の中でもその効果が見られた。生徒は、仕事や将来に関する関心事について、デジタル新聞を用いて情報を広げたり深めたりしながら理解を深めていた。また、その過程で、最初に作成した俳句を再構築し、自分の考えの変化や深まりを表現し直す姿も見られた。このように、俳句・新聞・対話が相互に作用し、生徒一人一人の学びを豊かにする実践となっていた。紙の新聞の良さ、デジタル新聞の良さを生かしながら学習を進めることができると感じた。

さらに本実践のまとめとして、活動の最後には共通テーマである「夢に向かって、希望を胸に未来を切り拓くために大切にしたいこと」について、生徒全員で考える時間を設けた。俳句や対話、応援カードを通して得た気づきをもとに、一人一人が自分なりの価値観や生き方を言葉にし、共有する姿が見られた。また、キャリア教育の視点においても、新聞を活用することで社会や仕事への理解が深まり、自分の将来と結び付けて考える有効な学習となったのではないかと考える。

(鈴木 昌子)

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー

新潟市立曽根小学校 校長 古井丸 裕三



大形中学校の N I E は、新聞というメディアの特性を生かして学力の向上を図るとともに、将来社会に出て生きて働く力を育てようとするものでした。目指す生徒の姿に迫るために「7つの A c t i o n」が設定され、「N I E の 3 要素」である「新聞を知る」「新聞から学ぶ」「新聞を作る」活動がバランス良く位置付けられていました。特に、「自分の考えをもつ」「自分の考えを伝える」「もう一度自分の考えを整理する」という 3 つの

段階を意識した授業における新聞活用は、学習指導要領の理念の一つである「主体的・対話的で深い学び」の実現につながるものであるといえるでしょう。

研究発表会での「N I E × キャリア教育」の公開授業は、教育目標「夢に向かって 希望を胸に 未来を切り拓く」姿を具現化しようとするものでした。ファシリテーター役の生徒を中心に自分の夢について語り合う生徒の姿は、後野校長先生の夢であったそうです。異学年の生徒で構成された縦割り班による N I E 活動が全ての教室で公開されたということを含め、全職員で取り組んできた大形中学校の N I E 実践に深く感銘を受けました。

2 担当新聞・通信社

日本経済新聞社新潟支局長 水庫弘貴



12月15日に開かれた新潟市立大形中学校の研究発表会では、1年生から3年生まで縦割りで授業をしました。グループに分かれ、生徒たちが自主的に意見を交わしていくなどして進められました。

新聞記事をもとに考えたことや感じたことから作った「俳句」をそれぞれ発表し、理由や具体的な経験などをグループのほかの人たちに説明しました。中には自分の考えをうまく説明できなかつたり恥ずかしがったりして黙ってしまう生徒もいました。しかし、ファシリテーターの3年生を中心にほかの人たちが発表者の言いたいことを、丁寧に一生懸命に聞き出そうと努力していました。その姿に深い感銘を受けました。まさに、研修主題の1つである「新聞を通して『対話力』を鍛える」ことが実現していると感じました。

問題を平和的・民主的に解決する基本は対話だと思います。しかし、自分の主張を一方的に述べて相手の話を聞かず、自分の考えとは異なる意見を「糾弾」するなど対話が成立していない場面が増えているような気がします。NIEでは新聞が課題や解決策を見つけ、自分の考えをまとめる糸口になることに加え、対話をして相互理解や合意形成を学ぶことにつながることも期待しています。